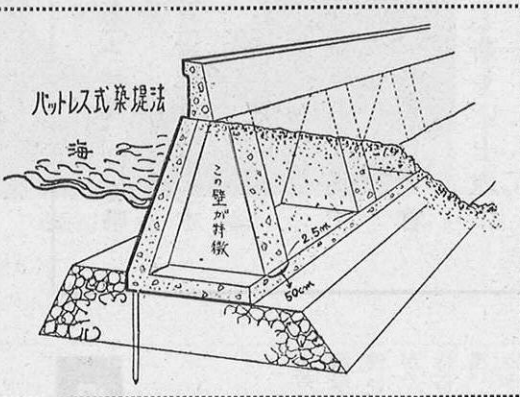


県営津奈木干拓地の全貌……山裾の道路は水俣へ至る国道>

けた。そして三十二年には調査計画、三十三年度には実施設計、三十四年度末には着工の運びにいたつたものであるが、この間、地元の人々の熱意は非常なものであつた。

**自慢の「バットレス築堤法」**

延長約千九百メートルの堤防は、過去数年間の最高汐位よりも



更に高く施工されることはいうまでもないが、特にこの堤防の自慢は「バットレス築堤法」だ。

この工法はごく最近採用されはじめた新しい技術で、県内はもちろん、全国的にも例が少いという。

これまでの堤防が、内側にはたゞ石を詰めていたのにくらべて、これは上図のように内側は厚さ五十センチのコンクリートの壁が二メートル半の間隔で外壁を支えている。

この工法は地盤の良い個所に適しているので、早速地盤の固い津奈木干拓に採用されたもの。

ともあれ、干潟のために漁港としても活用できなかった津奈木海岸が、美しい水田と化し、米換算千六百石の増収が約束されるというこの「県営津奈木干拓」……海を美田に変える「整形手術」はいま着々と進められている。

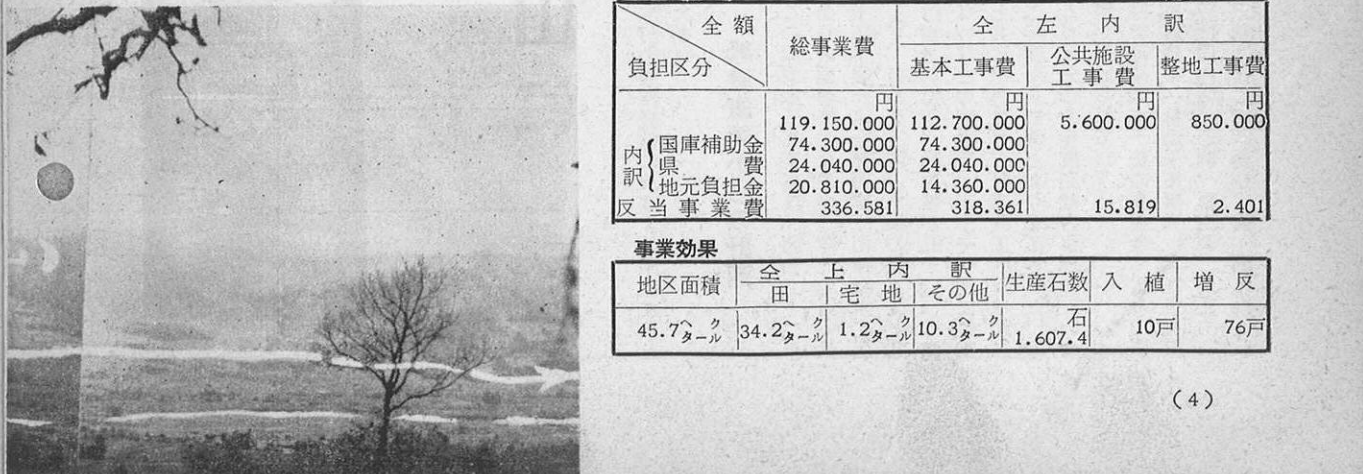
(参考)

負担区分	総事業費	全左内訳		
		基本工事費	公共施設工事費	整地工事費
全額	円 119,150,000	円 112,700,000	円 5,600,000	円 850,000
内訳	円 74,300,000	円 74,300,000		
国庫補助金	円 24,040,000	円 24,040,000		
県費	円 20,810,000	円 14,360,000		
地元負担金	円 336,581	円 318,361	円 15,819	円 2,401
反当事業費				

事業効果

地区面積	全上内訳			生産石数	入植	増反
	田	宅地	その他			
45.7ヘクタール	34.2ヘクタール	1.2ヘクタール	10.3ヘクタール	1,607.4石	10戸	76戸

山裾の田畑をうるおしていく……>



**団体営久木野土地改良事業**

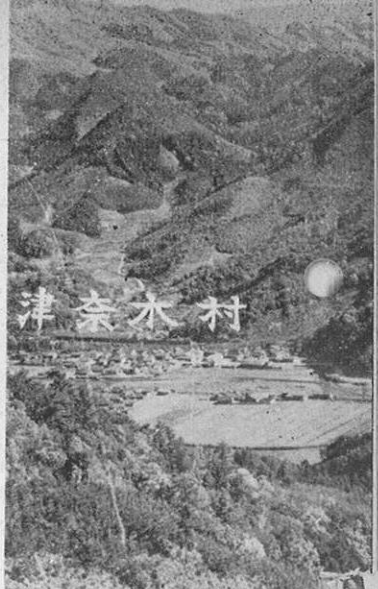
**阿蘇外輪山に用水路を**

**トローモロコシ畑も水田に転換**

ではないが……いつそのこと、積極的にこの豊富な水をもつと有効に活用しようではないかというのが、この久木野土地改良事業のそもそもの狙いである。

工事を簡単に説明すると、三つの内容に分けられる。まず第一は、白川から取り入れた水をポンプで外輪山の山腹に三十三メートル押し上げ、これを新たに掘る約十メートルの用水路（写真の白線）に流す。

第二は、いまある保木下用水路を更に六メートル延長し、第三は新旧用水路三本ともコンクリート張りにする……というわけ。



外輪山のドテツ腹に用水路をつらぬき、これに豊富な白川の水を押し上げて、低収入の畑を水田にかえようという、久木野村にとつては大変な大事業……だが人々はたち上つた。

**古い歴史の用水路**

「津奈木干拓」が海岸の整形手術とすれば、これから紹介する「久木野土地改良事業」は山腹の整形手術と云えよう。

ここは阿蘇郡久木野村……いわゆる阿蘇南郷谷をとりまく外輪山の裾野の傾斜に東西にひろがるこの村は、白川の豊富な水を活用して、昔から豊かな水田をもつていた。

いまある「保木下」と「ピワの首」という二本の用水路は、どんな真夏の日照り続きでも、澄みきつた水がコンコンと流れ続け、夏になると白川下流の部落から水を分けてくれと頼みにくる程。

この用水路の歴史は古い。寛文年間といえは今から約二百八十年位昔のこと。細川藩の御井手役人の監督で、永い歳月を費してこの二本の用水路を外輪山の中腹に掘りぬいた。測量機械とてない当時

のこと、役人は白川をはさんだ対岸、即ち立野から高森へ通ずるいまの道路の側に立ち、「釣量式」といって、秤りを水平に保つてこれを基準とする方法で水路の傾斜を見透すという、まことに幼稚な方法で測量し、工事を進めた。

面白いことには、御井手役人には土地の人は起用せず、この久木野の工事には白水村の人を、久木野の人は山西村の用水工事に派遣されたそうで、今の久木野村原田村長の先祖原田四郎兵衛という人が、この久木野用水工の御井手役人として白水村から来たのだという。

**豊富な水を有効に**

このように古い歴史をもつ二つの用水路は、今もなお立派にその役目を果しているが、何といつても素掘りのため、洩水が少くない……とはいつても、水が豊富なので地元の人々にとつてはそう苦痛

**土地改良で増産八千石**

この総事業費は一億七千万円。完成予定は昭和四十年。事業主体は久木野村土地改良区となつている。最初は「県営」でやつてくれという地元の要望が強かつたが、色々な条件で「団体営」となつたもの。だが県では、調査から実施設計、監督などあらゆる面にわたつて、非常な力コブを入れて強い援助を続けている。こうして、約六百ヘクタールの水田をうるお

<久木野村の遠望……左端の取水口から山腹に押し上げられた水は、白線で示した新しい水路を通つて延々十キロ、

